

アメリカ穀物協会
作付け予想報告と穀物在庫報告
2012年3月

2012年3月30日に、米国農務省は**作付け予想報告と穀物在庫報告**の二つの重要な報告書を提出した。これらの報告書の要点は以下のとおりである：

1. 現市場年度（2011/12）の期末在庫の引き下げ
2. 2012/13年度のトウモロコシ供給の引き上げ
3. 2012/13年度の大豆供給の引き下げ

2012年**作付け予想報告書**によると、米国の生産者は2012年に1937年以来最大の面積となる9590万エーカー（3881万ヘクタール）にトウモロコシを作付けると予想している。これは昨年より390万エーカー（160万ヘクタール）の増加となり、2007年の作付け面積を少し（240万エーカー、95万ヘクタール）上回るものである。

この報告は数字の引き下げを予想した市場関係者に驚きをもたらした。トウモロコシの作付け意図は昨年より4パーセント、2010年より9パーセント上昇した。さらに、ソルガムの作付け意図は9パーセント上昇し、5950万エーカーに、大麦の作付け意図は30パーセント上昇し、3333万エーカーとなった。

この大きなトウモロコシ作付け面積予想にもかかわらず、トウモロコシ、小麦、大豆の先物価格は上昇した。米国農務省の四半期**穀物在庫報告**は、2012年3月1日のトウモロコシ在庫を、予想を下回る60億1千万ブッシェルと予測し、貿易関係者の予想の平均を下回ったことから市場に驚きをもたらした。このトウモロコシ在庫の数字は2011年12月から2012年2月のトウモロコシの消費が、前年同時期の消費を大きく上回る36億4千万ブッシェルであったことを意味している。さらに、大豆と小麦の作付け面積と在庫が期待以上に低い予想であったことから、これらの作物の価格を押し上げた。

トウモロコシに関する影響

1. トウモロコシの作付け予想が大きく飛躍し、期待されている単収のトレンド（160.3ブッシェル/エーカー＝10.07トン/ヘクタール）を考え合わせると、141億4千万ブッシェル（3億5920万トン）に近い記録的な収穫が期待される。米国でこのレベルで生産されれば、国内の飼料、食品、燃料向けの利用と同時に世界中の消費者の需要を満たす輸出に向け十分に余裕を持った供給を確保できる。

2. 作付け意図はあくまでも米国産穀物生産予想量の予備的な指標に過ぎない。実際の作付け面積は、作付け時期の天候条件に影響され、トウモロコシの単収は生育期の重要な期間中の天候条件によって左右される。2012年6月29日に米農務省は作付け面積に関する次回の予想を**作付け面積報告**として提出する。5月初旬の世界農作物需給予

想（*World Agricultural Supply & Demand Estimates (WASDE)*）月報で、米国農務省の2012年の穀物生産予想を更新する。

3. この2012年のトウモロコシ作付け意図の大幅な上昇は、他の穀物と比較して強いトウモロコシ価格により引き起こされたものである。この強い価格は、既存あるいは増加しつつある中間層消費者による世界の食肉、牛乳、鶏卵の需要により引き起こされている。この需要の最も大きな成長は、中国、東南アジア、ラテンアメリカと中東といった発展途上市場で生まれている。米国内でのトウモロコシからのエタノール生産は、過去8年間にわたって需要の成長の一端を担っていたが、その需要も横ばいになったため、世界規模の飼料需要がふたたび粗流穀物価格の上昇の主因となっている。

4. 米国の飼料、食品、燃料業界の成長余力は限られている。米国の飼料穀物のもっとも重要な需要増は輸出用食肉の生産用である。トウモロコシからのエタノール生産は一定となり、来年以降の増加は限られたものになる可能性が高い。したがって、トウモロコシ輸出は米国生産者にとって、さらにその重要度を増すことになる。

5. 米国の穀物マーケティングシステムは、農場での在庫の増大と生産者のマーケティング技術の向上によって過去10年間に大きな変化を遂げた。その結果、米国のトウモロコシ生産者とマーケティング業者は、2012年の豊富な穀物を新たな市場年度を通じて保管し販売することが可能となっている。販売、購買双方が、注意深く系統だったマーケティング戦略を展開する能力を持っている。

6. 中国は世界のトウモロコシ市場での大きな「ワイルドカード」のひとつである。中国は世界第二位のトウモロコシ生産国であり、2011年には記録的な収穫高であったが、中国の国内トウモロコシ生産は急速に増え続ける中間層による急速に増大する需要の伸びに追いつくことができていない。中国は国内の豚肉、鶏肉、牛乳の生産の拡大を続けている。また、中国の継続的な大豆輸入は、トウモロコシについても相当量の輸入の可能性を予言するものである。中国政府は穀物の95%の自給率目標を維持しているが、中国は2011/12に少なくとも400万トンを入力する準備をしている。米国農務省の輸入需要では、2020年までに1500万トンに達するかもしれないとしている。

7. 将来 - 2012年以降 - トウモロコシの輸出は米国のトウモロコシ生産者にとってますます重要性を増し、トウモロコシ輸入は世界中のほとんどの発展途上国にとってさらに重要性を増すであろう。食糧安全保障は、多くの発展途上国にとって、食品や農作物の流通の制限を受けない貿易関係の保障の上に成立することになるであろう。将来に向けた明確なビジョンを持つ政府と産業界のリーダーが、貿易を促進し、貿易パートナーの信頼を築き、規制上の軋轢を取り払うための政策を編み出すために協力していかなくてはならない。



